

ナノ材料リスク評価書 -二酸化チタン(TiO₂)-
最終報告版：2011.7.22
更新履歴

【2011.9.20 版】

- ・ II-4, II-5 (図 II.1) 『Van der Waals 力』 → 『Van der Waals 力』
- ・ IV-13 (表 IV.2) TiO₂ ナノ粒子の気管内投与試験 (4/4) : 脚注の文字の誤りを修正
- ・ IV-24～25 : 一文削除『さらに, ナノサイズ TiO₂ は顔料グレード TiO₂ よりもフリーラジカル活性が強い (Donaldson et al. 1996) ことが報告されている.』
- ・ IV-25 : 誤字脱字修正
- ・ IV-69 : 『金で表面修飾したコロイド粒子』 → 『コロイド金粒子』
- ・ V-13 : 3.2 節(a)の『肺胞へ到達する量の』 という文を削除
- ・ V-24 (表 V.9) 表の最上段左から 2 つ目 『(2005, draft) ^a』 → 『NIOSH (2005, draft) ^a』
- ・ III-41, V-18 (表 V.8), VII-3 : 体裁整え

【2011.7.22 版】

- ・ 各章の冒頭に, 「1. はじめに」という節を設けていましたが, 節としての扱いを止め, もともと第 2 節だったものを, 第 1 節とし, 以下節番号を繰り下げました.
- ・ 第 V 章 4 節 (2 軸アプローチの節) を改訂しました. 5.12 版では BALF 中の炎症細胞の増加をコントロールでの反応との比として計算していましたが, 結晶性シリカ (Min-U-Sil) による反応との比として計算するようにしました. 論旨に変更はありません. 関連して, 第 IV 章 2.1.2 節(b)の末尾の分を改訂しました.

「BALF 中の炎症細胞数の経時的変化の結果を見ると, P25 の方が T805 よりも反応性が強いことが分かる. 例えば, 気管内投与後 21 日時点の BALF 中の好中球数の変化率で見ると, P25 暴露群は T805 暴露群の 5 倍の変化が認められている.」

↓

「BALF 中の炎症細胞数での結果を見ると, P25 の方が T805 よりも反応性が強いことが分かる.」

- ・ 第 IV 章の「発がん性」「遺伝毒性」「生殖発生毒性」「種々の暴露経路による体内動態と毒性」は, 当該箇所本文責である江馬らによる総説論文(それぞれ, 江馬ら 2010a, 江馬ら 2009, Ema et al. 2010), 江馬ら 2010b) に基づいて記述されたことから, それらの論文を引用文献としました. また, 転載許可を取得済みである旨を引用文献の箇所に加筆しました.
- ・ その他, 誤字脱字を修正し, 体裁を整えました.